

平成20年度新日本未来学会総会 資料

平成20年7月11日

新日本未来学会

議事次第

- 1.第1号議案(1) 平成19年度 活動報告
- 2.第1号議案(2) 平成19年度 会計報告
- 3.第2号議案(1) 平成20年度 活動計画
- 4.第2号議案(2) 平成19年度 予算案
- 5.その他(理事の補充選任案等)

資料

- 1.平成19年度 活動報告(案)  
別紙 シンポジウムの概要
- 2.平成19年度 会計報告(案)  
会計監査報告
- 3.平成20年度 活動計画(案)
- 4.平成19年度 予算案
- 5.理事の補充選任案
- 6.役員名簿

日本未来学会 平成19年度の活動報告 (案)

平成20年7月11日

日本未来学会は平成19年度から体制、会則を一新し、新日本未来学会として活動を再開した。以下は平成19年度(平成19年4月1日～平成20年6月30日)の活動報告である。

1) 理事会及び総会の開催(7月24日)

7月24日に日本未来科学館で理事会(議長 林雄二郎)を開き、これまでの活動経緯の報告を受け、会則を変更して、体制を見直すことを承認した。続いて開かれた総会で、改正会則が成立し、新理事の選任が行われ、会長に公文俊平理事が就任した。

2) シンポジウム「未来学ルネサンス」の開催

7月24日に日本未来科学館で別紙のように、シンポジウム「未来学ルネサンス」を開催、未来学最前線に関する3件の研究発表と基調講演、パネル討論を実施した。これらの結果はホームページでも紹介した。

3) 未来学フォーラムの開催

11月10日に東京経済大学国分寺キャンパスで第1回の未来学フォーラムを開催した。4つのセッションを設け、各テーマごとにテーマ発表者やコメントータ、参加会員らが活発に討論した。これらの結果を未来学フォーラム資料集としてまとめ、希望者に有料で配布した。

4) 企画委員会の開催

平成19年度は4回の企画委員会を(財)未来工学研究所で開催、本学会の将来方向性、シンポジウムの内容、未来学フォーラムの内容及び、平成20年度の事業等について議論した。

5) 国際交流

本会常務理事の松本信二氏と長谷川文雄氏が7月末にワシントンで開催されたWFS(世界未来会議)の年次会合に出席した。

また常務理事の長谷川洋作氏が2月に韓国の未来研究センター設立記念シンポジウムに招待され、「日本の未来学」について講演した。

日本未来学会 平成19年度会計報告(案)

(2007年4月1日～2008年6月30日)

1.収入の部

科 目	人数	単価	金 額	備 考
1. 会費収入			<u>200,000</u>	
個人会費	41	3,000	123,000	
役員加算	20	2,000	40,000	
顧問	3	2,000	6,000	
旧会費収入	1	10,000	10,000	
会費前納			21,000	
2. 資料代収入(未来学フォーラム)	38	1,000	<u>38,000</u>	
3. 非会員発表登録費(未来学フォーラム)	4	2,000	<u>8,000</u>	
4. 懇親会参加料	25	3,000	<u>75,000</u>	
5. 銀行利息			<u>215</u>	
6. 繰越金			<u>577,958</u>	
収入合計			899,173	


2. 支出の部

科 目	人数	単価	金 額	備 考
1. シンポジウム共催分担金 (平成19年度総会経費を含む)			<u>176,000</u>	7月24日 実経費の約1割
2. 未来学フォーラム			<u>188,480</u>	11月10日
資料印刷費			84,000	
懇親会経費			80,000	
アルバイト	3	6,000	18,000	
事務局交通費			4,840	
雑費			1,640	軽飲料他
3. 企画委員会			<u>43,380</u>	4回開催弁当代
4. 資料郵送費			<u>12,520</u>	
支出合計			<u>420,380</u>	
次期繰越金			<u>478,793</u>	
銀行預金			328,593	
郵便貯金			70,200	
現金			80,000	
当期収支差額合計			0	

## 会計監査報告

新日本未来学会の会計監査のため、平成19年度の会計報告に付き、資料に基づき説明を聴取し監査した結果、適正かつ正当であることが認められたので報告します。

平成20年7月4日

監事 東 晴彦 

新日本未来学会 平成20年度 活動計画 (案)

平成20年7月11日

1. 理事会、総会及び記念講演会の開催

理事会 平成20年度総会に先立って開催する他、必要に応じ特別に参集して開催する。

総会 平成20年度の総会を7月11日に日比谷の日本倶楽部で開催する。このとき Jose cordireo 氏に記念講演をお願いする。平成19年度の活動報告、会計報告、平成20年度の活動計画、予算案を審議決定する。

常務理事会(企画委員会) 年に2回以上開催し、今後の活動(特に今秋のシンポジウム及び来春の第2回未来学フォーラム)の具体策を検討する。

2. シンポジウムの開催

本年秋に若者のコミュニケーション問題を取り上げた公開シンポジウムを開催する。稲増龍夫常務理事を中心に企画する。規模によっては協賛を得るよう努める。

3. 第2回未来学フォーラムの開催

来春ごろ、会員が未来研究の成果を発表できる場として第2回未来学フォーラムを開催する。

4. ネット・フォーラム

ホームページを更新するとともに、昨年開設した、未来研究に関して会員が自由に参加、意見陳述できるスレッド方式の掲示板を充実させる。

5. 国際交流

ミレニアムプロジェクトへの支援を通じ、未来研究に関する国際交流を行う。7月末に開催されるWSFの年次大会に長谷川洋作事務局長と松本信二常務理事が参加する。

7. 会員の増大を図る

公開シンポジウムの資料購入者には特別に入会を認めるなど、会員の総数を100人以上に維持すべく、新会員の獲得増強に努める。

新日本未来学会

平成20年度予算(案)

(平成20年7月1日～平成21年6月30日)

平成20年7月11日

1. 収入の部

会費収入	410,000円	
個人会員	360,000円	3,000円×120人
役員連絡費	50,000円	2,000円×25人
研究発表会収入	130,000円	
発表会員から	30,000円	3,000円×10人
一般会員から	40,000円	2,000円×20人
非会員から	60,000円	3,000円×20人
前期からの繰越		
	577,958円	
収入合計	1,117,958円	

2. 支出の部

シンポジウム・総会経費	200,000円
研究発表会経費	150,000円
理事会・常務理事会経費	80,000円
ネット運営経費	30,000円
事務局管理・運営費	150,000円
支出合計	610,000円
次期への繰越	
	507,958円
収支差額	0円

### 第3号議案

#### 理事の補充選任案

会員の廣田和夫氏を理事に選任したい

選任された場合、任期は他の理事と同様、平成21年度の総会の日  
までとする。

#### 参考1

廣田和夫

昭和20年生まれ、都市計画や地理情報システムの仕事に従事

著書 未来社会の構造、未来からの伝言

#### 参考2

理事の定数 20名以上50名以内

現在の理事数 21名

## 役員

2007年7月現在

会 長	公文 俊平	多摩大学 情報社会学研究所 所長
常任理事	稲増 龍夫	法政大学 社会学部 教授
同	長谷川 文雄	JR東日本 フロンティアサービス研究所 所長
同	稗田 浩雄	(財)未来工学研究所 理事
同	廣松 毅	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
同	帆足 興次	江戸川大学 社会学部 部長 教授
同	松本 信二	シー・エス・ピー・ジャパン(株) 顧問
同	吉井 博明	東京経済大学 コミュニケーション学部 教授
同	和田 雄志	(財)未来工学研究所 21世紀社会システム研究センター長
理 事	上田 昌文	市民科学研究室 代表
同	小野 直哉	京都大学医学研究科 博士後期課程
同	鎗木 孝昭	(株)IHI 情報システム部新事業推進グループ 部長
同	篠原 淳理	積水ハウス(株) 設計本部 次長
同	高橋 英與	(社)コミュニティネットワーク協会 副理事長
同	高柳 雄一	多摩六都科学館 館長
同	玉田 樹	元 野村総合研究所 理事
同	長 恵祥	(株)大林組 副社長
同	林 光	(株)博報堂 生活総合研究所 主席研究員
同	水谷 仁	ニュートン 編集長
同	山内 康英	多摩大学 教授
事務局長・常任理事	長谷川 洋作	(財)未来工学研究所 常務理事 研究所長
監 事	松井 好	(社)科学技術と経済の会 顧問
同	東 晴彦	(独)産業技術総合研究所 総括主幹
特別顧問	林 雄二郎	前日本未来学会会長 (社)日本フィランソロピー協会 会長
同	加藤 秀俊	前日本未来学会 理事長
顧 問	合田 周平	電気通信大学 名誉教授
同	渥美 和彦	東京大学 名誉教授
同	栄久庵 憲司	(株)GKデザイン機構 会長
同	小松 左京	作家



## 別紙

### シンポジウム「未来学ルネサンス」実施概要

#### 1. 開催日時

2007年7月24日 10時～17時

#### 2. 開催場所

日本科学未来館 みらいCANホール  
〒135-0064 東京都江東区青海 2-41

#### 3. 開催団体

主催：日本未来学会 財団法人未来工学研究所  
後援：日本科学未来館  
協賛：財団法人新技術渡辺記念会

#### 4. 参加者

参加申込数：175名  
参加者：132名

#### 5. 実施シンポジウム概要

午前10時、日本未来学会会長、財団法人未来工学研究所副理事長の林 雄二郎の挨拶から開演。続き財団法人未来工学研究所研究者3名による「未来学最前線」と題した研究発表3題を午前中に実施。演題と発表者は次のとおり。

不安定な未来－調和型世界の展望－ 稗田 浩雄（本会常務理事、財団法人未来工学研究所理事（技術・国際関係研究センター長））。

日本の未来－活力ある人口減少社会シナリオ－ 和田 雄志（本会常務理事、財団法人未来工学研究所 21世紀社会システム研究センター長）。

技術の未来－イノベーション創出のために－ 菊田 隆（財団法人未来工学研究所 科学技術政策研究センター長）。

午後からは、1時30分より東京大学名誉教授の月尾嘉男氏による基調講演。演題は「人間が想像した未来・科学が創造した未来」。偉大な発見を起こすことや無駄をなくすために、われわれは想像力をもっと使わなければならない、新たな技術革新、経済活動、社会秩序をつくるフロンティアを目指せと話された。フロンティアは情報通信、ゲノム、ナノ、脳科学、環境問題など多くの分野にあるという。「未来を開拓するために必要なものは想像力である」など話された。

午後 2 時 45 分よりパネルディスカッションを実施。論題は「ロボット化社会ーロボットの人間化 VS. 人間のロボット化ー」。コーディネータ、パネリストは次のとおり。

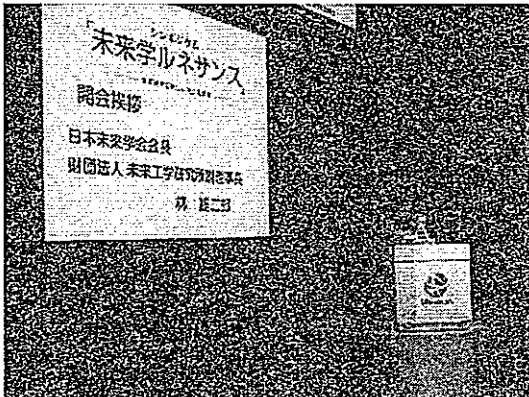
コーディネータ：長谷川 文雄 JR東日本フロンティアサービス研究所所長  
日本未来学会常務理事

パネリスト： 瀬名 秀明 作家 東北大学機械系特任教授  
山海 嘉之 筑波大学大学院教授  
渡部 直也 株式会社ワグ・サーチ・インスティテュート・ジャパン 取締役  
元村 有希子 毎日新聞 科学環境部記者  
長谷川 洋作 財団法人未来工学研究所 常務理事 研究所長  
日本未来学会事務局長

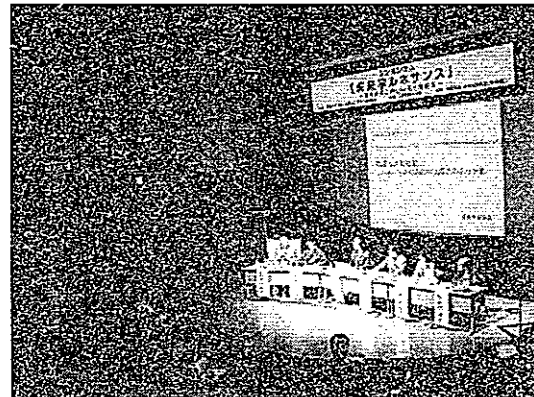
ロボットはある程度自律的に動かないといけないが、製造側の責任がどこまでなのか線引きが難しくなる。たとえば、どこまで学習させた状態でお客に引き渡すのか、ロボットが問題を起こした場合誰が責任を取るのか。また軍用ロボットは日本でも考えておかないといけない課題等、多岐に渡り論議された。

シンポジウム全体において、ほとんどの方に満足して頂ける内容になった。

## 6. 写真



開会挨拶



パネルディスカッション

参考

シンポジウム(未来学ルネサンス)の主な経費

項 目	金 額
会場等運営費	486,646
案内リーフレット、参加申込書、講演資料、入会案内等作成	716,835
講師謝礼	311,111
交通費	72,890
通信費	99,600
消耗品費	4,979
アルバイト	6,500
その他コピー費	44,520
人件費(主任研究員6人/日)	352,800
総額	2,095,881

共催者以外からの収入

技術振興渡辺記念会協賛金		500,000
資料代收入	58 3,000	174,000